



50周年記念号の発刊について

川田 善正†

「レーザー研究」編集委員長

Publication of the 50th Anniversary Issue

Yoshimasa KAWATA†

Editor in-Chief of The Review of Laser Engineering

レーザー学会が1973年に創立されて以来、今年で50周年を迎える。心からお祝いを申し上げるとともに、長年に渡りレーザー科学および光科学分野をリードしてこられたレーザー学会の会員の皆様の活動には、心より敬意を表したい。このような記念すべき年にレーザー研究の編集委員長を担当させていただくことは、大変光栄なことであると感じている。

「レーザー研究」は、レーザーに関する唯一の専門学術誌であり、レーザー学会の活動の一翼を担ってきた。特集では、「A. レーザー物理化学」「B. レーザー装置」「C. レーザーエネルギー応用」「D. レーザープロセス」「E. レーザー計測」「F. 光機能材料・デバイス」「G. 光通信」「H. 光情報処理」「I. レーザー医学・生物学」「その他」の多岐に渡る分野をバランスよく取り上げ、レーザー技術の基礎から装置、応用分野まで幅広く取り上げてきた。本号にこれまでレーザー研究で取り上げてきた特集の一覧、過去の論文賞等の受賞者を掲載しているので、そちらをぜひ参照していただきたい。合わせて、本号より12月号まで毎号、各分野のこれまでのあゆみや取り組み、今後の方向性などについて取り上げていく予定である。各分野に所属する編集委員長が中心となって、自由な形で各分野について記事を掲載していく予定であるので、楽しみにしていただきたい。

既にお気づきになられているかと思うが、レーザー学会創立50周年を記念して「レーザー研究」の表紙デザインを本年1月号からリニューアルした。2022年7月号や学会のウェブページ上で公募を行い、合計21件の応募の中から編集委員の投票を行い、今回のデザインに決定した。創立50周年記念のロゴも、本号から表紙に掲載しており、25件の応募の中から決定した。素晴らしい作品をご応募いただきました皆様には、厚くお礼を申し上げたい。

今回のデザインは、編集委員会で厳正な選考を行い、黒を基調とした中に、カラフルな波紋状の形状がデザインされており、次世代を彩るレーザー(光)のイメージが表現されているものとして選出された。これまでの表紙は、2004年から使用され、19年の長きにわたって使用されてきた。今回の表紙デザインも「レーザー研究」の顔として、広く永く皆様に親しまれることを願いたい。

現在、コロナ禍の状況の中で、学会活動が大きく制限され、また今後は、少子化、それらに伴う会員数の減少、注目度の高い論文を示す引用数などの指標における日本の科学技術の国際的な地位の低迷など、学会にとっても厳しい時代が続くものと思う。その一方で、コロナ禍の状況が落ち着く気配の中で、学会に参加し、対面で議論する意義も再評価されつつある。今年の年次大会の盛り上がりがその好例であると思う。もちろん実行委員の方々の地道な努力の賜物であると思うが、このコロナの状況の中でこれまでで最大の発表件数があり、懇親会にも多くの会員の皆様が参加され、会員間の交流をおこなったことは、ここ数年の閉塞感を打破しようとするレーザー学会の会員の皆様の活力を象徴するものであると考える。

学会は、会員の相互の交流と情報交換を行う場であり、学会に参加すれば、そこに同じ分野に興味を持ち、科学技術を発展させるために助け合う「仲間」と、互いに切磋琢磨する「ライバル」がいると思う。「仲間」と「ライバル」が互いに和気あいあいとかつ真摯に議論し、お互いに高め合う場として学会の場が活かされることを願いたい。レーザー学会が「次の50年光輝き続ける」ための活躍の場の一つとして、「レーザー研究」が活用されることを期待する。

† 静岡大学 電子工学研究所(〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1)

† Research Institute of Electronics, Shizuoka University, 3-5-1 Johoku, Naka, Hamamatsu, Shizuoka 432-8561